



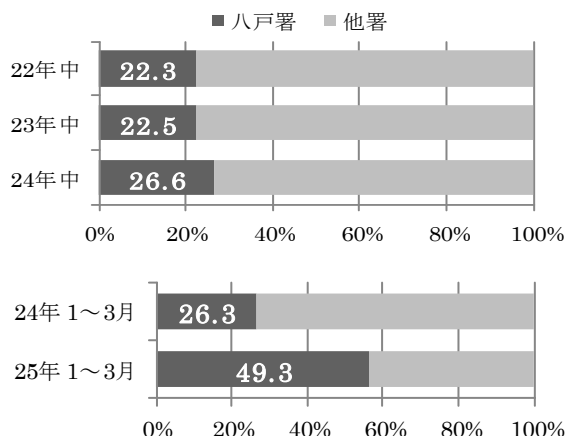
かがみ



## 安全・安心、そして非行のない街へ

右のグラフは、万引きにより補導された少年数（県全体と八戸警察署管内との比較）の推移を表したものです。23年中・24年中は、県内18警察署がある中、八戸警察署管内（※階上町を含む）の万引きで補導された少年数は、「県内ワースト1」となっております。（※24年中の万引き少年数は、青森署の約1.6倍、弘前署の約1.5倍）また、本年1～3月期間のグラフをみると、県内万引き補導数の半分近くを八戸警察署管内で占めており、極めて憂慮すべき状況にあります。「万引きはしない、させない、見逃さない」の強い信念のもと、家庭、学校、地域社会みんなで協力して、「万引き撲滅」に取り組みましょう。

万引き少年数 県全体と八戸署との比較



### 自転車の安全運転を

今年、市内の小学生の自転車事故が多く発生しております。また自転車に乗っていた少年が加害者となる事故も起きています。夜間のライト点灯などの交通ルール理解及び交通マナーの向上等、指導をお願いします。

### 子どもの犯罪被害防止を

不審者等の情報を得た場合、犯罪を未然に防ぎ、子どもたちを守るために、警察への早期通報をお願いします。

●八戸警察署…43-4141

※いざという時は「110番」

## 問われる 大人の本気度

～子どもが見えていますか～

八戸市教育委員会 教育長 伊藤博章

### 1 教育長就任にあたって

◇今年度より、市内全校で取り組む「地域密着型教育の趣旨を生かした開かれた学校づくり」を学校経営の基底に据え、教育活動の一層の充実を図ってまいります。地域密着型教育は八戸版コミュニティスクールともいえるもので、保護者や地域住民が学校運営に参画し教職員と一体となって子どもたちを育てることをねらいとしております。



◇人間は教育によってつくられるといわれています。教師は日々の教育実践を通し、確かな授業力を身につけ、教育に対する使命感や情熱を忘れず、そして何よりも子どもたちの人格形成に関わる者として豊かで良識ある人間性を備えた教師でありたいものと思っています。

◇学校や教師への信頼が揺らいでいる今だからこそ、「信頼される学校づくり」が学校現場にとっても、教育行政にとっても取り組むべき最大の責務であると考えております。文武両道にわたって活躍する児童生徒を育成し、県下に「教育のまち八戸」と誇れる学校教育の充実を目指し取り組んでまいります。

## 2 汚名返上への決意

◇今月、八戸警察署生活安全課少年係から、「保護者の皆様へ」という広報が学校を通じて全家庭に配布されました。その内容の一部を抜粋してみます。

「八戸警察署管内では少年による『万引き』が続いており、県内でも突出して目立っています。最近では、単独で万引きをする少年よりも友だちと一緒に万引きをする少年が増えています。楽しみにしている夏休みを前に、子どもたちの気持ちを引き締めるため、『やってはいけないことはやらない』という当たり前のことを、今一度子どもに教えていただきたくお願いいたします。」

◇青少年健全育成関係諸団体も巡回指導や非行防止啓発活動など献身的に取り組んでいます。にもかかわらず、万引き少年が県内で一番多いとのデータを見るたびに心が痛みます。すでに数年前から、市内全中学校・高等学校に少年非行防止を呼びかける「JUMPチーム」が結成され、創意・工夫を凝らした活動が行われ一定の成果をあげています。小学生による「リトルJUMPチーム」も、今年度から市内全小学校に結成されました。非行は万引きだけではありませんが、せめて「万引きしま宣言」を今年度こそは実効性のあるものとし県内ワースト1の汚名を返上したいと決意を新たにしています。

## 3 見えてますか 子どもの心

◇保護者や地域住民と職員が一緒になって、「願い」「情報」「学び」「責任」を共有し、子どもたちを取り巻く教育的な環境を少しでもより良いものにしていく、それが地域密着型教育の願いでもあります。昨今、社会の急激な変化によって、保護者の勤務形態も多様化し、家庭環境も随分変わりつつあります。万引き多発や非行の低年齢化は、わたしたち大人社会の規範意識の低下も一因ではないかと考えます。職員も保護者も「多忙」という現実のなかで、肝心の子どもたちの心が見えなくなっているのではないかと危惧しています。

◇学校では元気な子どもが、家族のぬくもりを知らず孤独な日々を過ごしていることもあります。友だちがつくれずに、学級が心の居場所になっていない子どももいます。わたしたち大人がそうであるように、子どもも実に多様な顔をもっています。家庭で見せる顔、学校で見せる顔、友だちに見せる顔、みな違いますが、どれもが本当の顔です。保護者や地域住民として、地域の学校運営に参画し、子どもたちの日常のありのままの姿に接しているうちに、子どもたちの本当の心が見えてくるはずです。多忙を言い訳にせずに、子ども心に寄り添うことが、今一番大切なことではないでしょうか。